



(計画段階) 2014年4月作成 コンセプト画像

既存のモジュール輸送船だけでは、プロジェクトが成り立たないのでは？



北極海を通年航行可能な船舶を建造



(現実) 2016年4月 カラ海にて撮影

24か月後



船舶の仕様:

- 2隻姉妹船建造
- Open Stern Deck Carrier
- アイスクラス: PC3 (Arc7 同等)
- 設計耐気温: マイナス40°C
- 砕氷能力: Level Ice 1.5m厚 @2.0knot
- 載貨重量: 約2万トン
- 建造国: 中国・広州

砕氷型モジュール船の特徴は？



中国・広州の造船所にて撮影

アイスクラス: PC3 (Arc 7)

砕氷型船首形状

厚さ約1.8mの氷を連続砕氷しながら航行できるデザイン



中国・大連の造船所にて撮影

アイスクラス: PC7以下 (Arc 4)

在来型船首形状(バルバスバウ)

顕著な違い:
船首形状

他にも、

- 後進の際にも砕氷できる船尾構造
- 海氷のプロペラ巻き込み防止の構造 = アイスクナイフ
- 海水面・海氷面(ドラフト)付近の船側構造の補強 = アイスベルト 等の違いがある。

精巧に作られたモジュールを積んだまま、砕氷しながら走って大丈夫？



モジュールの積荷航海では、原則すべてのモジュール船に対して砕氷船によるエスコートを手配した。



傭船による撮影

原子力砕氷船 50 let pobedy



エスコートされるモジュール船

エスコートする砕氷船

傭船による撮影

現在運航されているロシアの原子力砕氷船は**4**隻のみ

原子力砕氷船は常時1～2隻体制でエスコートにあたり、残りは他の航路への支援や整備・補給の為に不在となり、プロジェクト輸送では「砕氷船待ち」が多く発生した。